



Pure Diffusionは、主にストックホルムの状況と比較し、パリの汚染された大気と悪い雰囲気(人々の機嫌の悪さ)への解毒剤として、考案・遂行した都市への介入。空気清浄作用のある植物とパリに住む人々のネットワークがそれぞれ育つことによって、きれいな空気とより幸せな雰囲気が広がることを目指した。

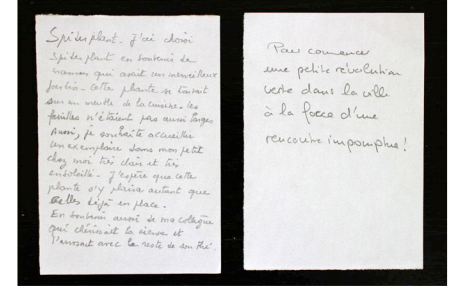
**状況・観察:** 大気汚染/機嫌の悪い人々  
ある日、パリで自転車に乗っている時に街が霞んで見えることに気づく。別の街からパリに着く度に鼻に違和感を覚える。街路には文句を口にし、否定的な感情を露にする人々が溢れる。

**分析・思考:** 植物で空気を清浄?  
汚染された大気を吸うことによる健康被害を想像する。植物の中には空気中の汚染・有毒物質を取り除き、空気の清浄に優れたものもある。汚染・有毒物質には頭痛や苛立ちを引き起こすものも。たった一株の植物だけでは大きな効果は望めないが、この街に住む一人一人がこの空気を清浄する植物を育てると、どうなるの。その植物は空気の質を良くするだけでなく、人々の生活の質も向上するかもしれない。

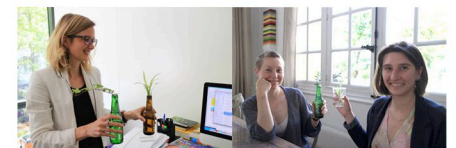
**介入:** 株分けした植物を贈り物として配布  
2015年の夏に空気を清浄する植物を購入。これらの植物を育て、枝を切り、根を分け、それらを水生栽培し、時間をかけて株分けしていった。毎朝植物に声を掛け、水やりをし、霧を吹きかけるのは楽しい習慣となった。8ヶ月が過ぎ、植物は大きに育ち、アイビー1株とオリヅラン1株は合計80株を超えた。

パリの通りに面したショーウィンドウのあるギャラリーでの展示で、一ヶ月に渡りこのプロジェクトを紹介、またその地でも株分けを継続。会期終了時には、植物を観客や通りゆく街の人々などに配布。彼らは汚染物質の多い所で働いている人、神経質で起こっているように見える人、寄り添うものが欲しい人かもしれないし、その植物を育てて株分けし、小さな植物の分身をさらなる街の人の手に届けていく人かもしれない。

**反応:**  
一ヶ月の紹介期間を通して、多くの観客や通行人がプロジェクトの概念や物理的側面に興味を持ち、問いかけてきた。また社会や植物にまつわる彼ら自身の意見や逸話を教えてくれた。観客は植物を喜んで受け取り、そのうち数人はその後の植物の育ち具合を写真に撮って報告してくれた。



(左頁、上から)2016年5月、パリのギャラリーでの展示では、プロジェクトに用いたアイビーとオリヅランの「母株」と株分けされた「子株」たちを並べ、展示中もギャラリーで株分けを継続。母株の購入から一ヶ月後の2015年9月、初めての株分け; 八ヶ月後の2016年4月、秋冬を経て大いに成長した植物 (右頁、上から)2016年6月、介入のコンセプトとアイビーとオリヅランの育て方、株分け方法を伝えるミニワークショップの後、空気を清浄する植物を引き取る参加者たち; 展示が行なわれているショーウィンドウの中の、植物の養親たち; なぜ植物が欲しいのか、それを誰に贈るのか、また私的な植物にまつわる逸話など、参加者はコメントを書き残していった。2016年6月、パリのスウェーデン文化館やアンステイテュブランセなど、介入に関わる機関にも植物を配達



Pure Diffusion (Stereoscope on Societyシリーズより)  
2015 -  
プロジェクト (社会・都市への介入 [プロトタイプ])  
フランス・パリ

『Stereoscope on Society』について  
2013年から展開している、都市および社会への介入シリーズ。ステレオスコープのように、余所者として、そこに住む者として、ふたつの目でパリを見つめる。このシリーズではパリにおけるいくつかの状況(緑の不足、雇用問題、大気汚染など)を取り上げ、解決・改善・変更の可能性を私の小さな介入で提案する。プロジェクトの一部は、パリを拠点とする建築家集団Septembreの協力を得たリサーチに基づいている。